



発行所  
財団法人 日本手芸作家連合会  
〒160-0023  
東京都新宿区西新宿5丁目25番13号  
パラガイハイツ9階C室  
電話 03-3374-3359  
FAX 03-3374-3352

### 新年号

- ◆第188号 1月号
- ◆会長年頭あいさつ
- ◆全国支部長・教室長会
- ◆平成21年度研修会
- ◆第42回創作手工芸展表彰式
- ◆筆のむくまに 第十六号

ただきたいと切に願っています。  
「日は昇り日はまた沈む何時の時も我に凜たり心の一樹」の短歌の如く、どうかご自分の揺がぬ信念(凜たる心の一樹)をお持ちになつて更なる発展を遂げられますことを祈念して年頭のご挨拶と致します。

## 謹んで新年の

## 御祝詞を申し上げます



会長  
岡谷 恭子

会員の皆様には恙がなく、佳き新年をお迎えになられましたこととお慶び申し上げます。

西暦でいきますと20年。今年はその10年に向けてその第一歩を踏み出す輝かしい年といえます。皆様の前途に心からなる祝意を表したいと存じます。

世の中は、なかなか厳しい状況にあります。手工芸にたずさわる多くの方々は、ご自分の世界を

更に深められると同時に、ひいては日本の手工芸文化が皆さん達によって高められ支えられているという結果に繋がることは間違いのない事実です。

これからの時代は、私達は日本人として、国際人として生きることに当たり前の世の中になるでしょう。手工芸作家の皆様がご自分の分野を究め広げていくことは、誰に阻まれることなく、喜びを以って取り組むことが出来る世界です。それこそ生涯現役として活躍出来る、こんな素晴らしい世界はそう沢山はないと信じております。

本連合会は確たる42年の歴史があり、社会的に高く評価されている実績があります。このように国が認める全国レベルの「連合会」

という組織に所属し、その活動の中で個人としての実績を積むことこそ、お一人お一人の活動を確固たるものにする力強い味方となっていると思っております。この全国組織で、かつ様々のジャンルの作家の方々の集合体であり、その連合会の会員であることこそ大きなメリットであると信じます。その後は会員として自分がどのような活動をするかが問われることとなります。個人としての積極的な活動なくしては何も得るものには伴わないでしょう。

技を究めるには自己研鑽が必要です。その研鑽がどの位成果を遂げたかを判断するには、客観的な評価が必要です。連合会の創作手工芸展コンクールは資格審査とコンクールが連動されています。現代はその道のステータスシンボルがその人の力量を評価する大きな役割を果たしていますから本連合会の機能をフルに利用し、資格取得、コンクールの入選入賞を果たし、作家としての生涯現役を貫いてい

### 平成21年度全国支部長・教室長会開催される

去る11月27日(金)午後3時から、上野精養軒「あやめの間」において、支部長・教室長会が開催されました。

開会にあたり、岡谷恭子会長から挨拶と役職者(理事)の紹介があり、次いで出席者の自己紹介がなされた後、宮川理事長の司会で議事が進められました。

議事の内容は、左記のとおりです。

#### 1 報告事項

①事業報告  
庄子常務理事から、前年度の執行された各種事業について、資料に基づき詳細な説明が行われました。

#### ②財務報告

齊田常務理事から、前年度の決算について、資料に基づき詳細な説明が行われました。

#### 2 議題

①会運営のあり方について  
片山副会長から、財務報告

にあるとおり、会の財政は年々逼迫してきており、今後会を運営するにあたっては、かなり厳しいものがあるとの説明が行われました。

次いで、宮川理事長から、打開策として年会費等を値上げする提案が資料に基づいて行われ、審議の結果、平成22年4月から改定することが承認されました。

②公益法人制度改革について

宮川理事長から、「昨年12月に法人改正法が施行され、本連合会も特例民法法人化した、いよいよ新制度への移行に向けて申請準備をしなければならぬ」旨の説明があり、現在、特別委員会において公益財団法人の設立を目指して種々の検討が行なわれていることが報告されました。

③研修会について

研修担当の相澤評議員から、今年11月26日に実施された研修会（東京芸術大学教授三田村有純氏の講演）の経緯について報告があった後、来年以降の研修について、どこ（国内・国外）で何（講演・講習・見学）を行うのが望ましいか、アンケートがとられました。

④その他

会員が減少していく中で、

各支部・教室においても会員の確保には万全を期してもらいたい旨の要望が出されました。

平成21年度研修会  
「三田村教授講演会」  
創造する心

相澤 ふみ江

平成二十一年度の研修会として、東京藝術大学の教授でいらっしゃる三田村有純先生をお招きして講演をしていただきました。

十一月に上野の東京都美術館で創作手工芸展が開かれたので、その期間中に合わせ十一月二十六日に上野のターミナルホテルで開催しました。



三田村教授はたくさんのお著書があるのでご存知の方もいらっしゃると思いますが、現在

美術運動体九つの音色同人  
中国中央美術学院 客員教授  
で、いらっしゃいます。  
とても立派な肩書きですが、先生ご本人は大変温和で優しい方です。

講演会の前に私共の創作手工芸展を見て来て下さり、講演の内容も、当連合会の主旨に合わせて「創作する心」と言う題名でお話して下さいました。

創作手工芸展の期間中もあつたので、日本各地からの会員さんが講演会を聞きにいらしていましたが、三田村教授がとても解りやすく親しみやすくお話しして下さいましたので、今後の制作活動をしていく上で大変参考になったのではないのでしょうか。

講演会の最初に当会の岡谷会長が挨拶をなさり、最後は石井副会長がお礼の言葉と花束贈呈をなさりました。

その頃には緊張していた会員の皆さんの緊張もほぐれ、和気藹々とした和やかな雰囲気の中で幕を閉じました。

講演会の後は、同じホテル内にある和食「水車」で懇親会が開かれ、三田村教授と教授の奥様も出席して下さいました。

三田村教授の奥様も東京藝術大学の出身でいらっしゃり、学芸員の資格で美術や出版のお仕事をな

さっていらっしゃいました。ご結婚後は三田村教授のお仕事のサポートもなさり多才な方でいらっしゃいます。

講演会中も教授のサポートをして下さいましたが、懇親会でも教授と一緒に会員さんのテーブルを回ってお話をして下さったり、質問に答えて下さったりしました。懇親会でも三田村教授と奥様を中心に楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。

懇親会中に三田村先生の著書の一部もご紹介いただきました。

「漆とジャパン 美の謎を探る」

里文出版 二〇〇五年

「ワイリアム・モリスの一〇〇デザイン」

藝祥 二〇〇八年

「日本の藝術家DVDシリーズ VOL1 三田村有純の世界」

藝祥 二〇〇九年

「漆 煌めきの刻 江戸蒔絵の系譜」

里文出版 二〇〇九年

「お箸の秘密」

里文出版 二〇〇九年

出席した方々から、是非これらの本が欲しいとの声があり、教授と奥様のお骨折りで、講演会に出席した方々には希望の本が届くようにして下さいました。

三田村教授をはじめ協力して下さいました方々のお陰で、有意義な研修会を催すことが出来ました事、大変ありがたく思っております。

在の一部をご紹介しますと、  
東京藝術大学 漆芸 教授  
江戸蒔絵赤塚派十代目  
日展 評議員（審査員4回）  
現代工芸美術家協会 評議員  
日本漆工協会 理事  
日本文化財漆協会 常任理事

創作手芸展審査によせて

審査委員長

文化女子大学主任教授 林 泉

今年も大変な力作が多く海外や学生からの出展も集まりバラエティに富んでいました。今回の作品の特徴といたしまして、時代性、グローバル化又新しい挑戦へと手芸展の幅が広がり皆様の作品に反映し力強さを感じました。文部科学大臣賞の「純白のワルツ」柳下さんの欧風刺繍の作品は前面に花の、華やかさの中に品格があり素晴らしい作品でした。東京都議会議長賞「宙(こころ)の記憶」花と生きる」青山さんのシェーネアルバイテンは曲線の美と七宝文様と唐草と金箔で永遠の宇宙が表現されていました。大妻コタカ賞「地藏菩薩」平田さんの鎌倉彫は、地藏菩薩のお顔の優美さと木目の美しさを強調されて彫られておりました。日本手芸作家連合会会長賞「黄昏れ」畑さんの欧風刺繍は北海道の秋色を麻の糸と毛糸など、異素材の面白さで表現されていました。審査委員長賞「おいしいよ私達」渡邊さんのミニチュアフードは、食文化を和食、洋食、サラダ、お寿司、スイーツのケーキ類まで、ものすごい量と精密に

作られたお料理のすべてが表現されており審査員から感嘆の声があげられました。優良賞の刺し子とパッチワークのコラボレーションも日本の伝統芸術に現代を融合した作品でした。奨励賞の「裂き織」は、お母様やお姉様の着物を裂いて織り上げた反物は血の滲むような作品でした。努力賞の「無我」は手仕事の大変さの中に作り上げていく喜びが伺える作品でした。アイデア賞「夜桜」は日本の和紙と刺繍で桜の花のはかなさを表現された面白い手法でした。佳作の「ようこそアンの故郷」は創作真多呂人形は非常に細かく丹念に作り上げられておりました。そのほか協賛会社特別賞の作品やそれぞれ入選された素晴らしい作品は今後が期待される作品でした。多くもの興味や好奇心を磨き更なるチャレンジ精神を発揮されますことをお祈りし、来年の皆様の作品に目にかかれまことを心より期待しております。

受賞者のことば

文部科学大臣賞

「純白のワルツ」 欧風刺繍



文部科学大臣賞

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

伝統ある財団法人日本手芸作家連合会主催、第42回創作手芸展に於いて私の出展いたしましたこまりの屏風に、栄えある文部科学大臣賞を賜り感激と感謝の心でいっぱいです。

作品制作に当たり先ず取材から始めました。華麗でありながら清楚なイメージのこまりにとても魅力を感じ季節がめぐって来る度に、こまりのイメージを自分の中にいっぱいいっぱいふくらませ制作に取りかかりました。作品が大きく刺繍の量が普通でない事をしっかり自覚いたしました。来る日も来る日も刺し続け制作に約2年の月日を費やしました。長い間には、イメージがかすれてしまい

そんな時もありました。その様な時私は、自分の中の熱い思いを作品に語りかけました。「あなたはどんな作品にしてほしいの」「私はこんな風にしたいの」と、言った具合です。

ご指導頂きました先生はじめ、教室の皆さまからの励ましと応援が、この度の受賞につながったと心から感謝しております。

この大きな賞を胸に、作品作りを楽しみ、私自身を磨き、生涯学習の一つとして末長く続けて参りたいと思っております。

最後になりましたが、日本手芸作家連合会の益々の御発展と、生方の御健勝をお祈り致しまして、受賞の挨拶に代えさせて頂きます。

文部科学大臣賞

柳下美恵子

東京都議会議長賞

「宙の記憶」シェーネアルバイテン



東京都議会議長賞

この度は「東京都議会議長賞」という大変栄誉ある賞を戴きまして、驚きと嬉しさで感激いたして

おります。

五年前、初めて創作手工芸展を拝見させて戴いた時、震えるような感動と、会場を満たす作る喜びがあふれ見る者を包み込むような美しい作品の数々に刺激を受けまして、本格的に創作活動に入る決心を致しました。

今回の「宙(こころ)の記憶」―花と生きる―は、宇宙のように無限に広がる心の中に、力強く伸びてゆく「花に癒される心」を持つDNAの螺旋をテーマとし、永遠性を持つ黄金(金箔)や七宝文様、唐草(からみ草)で表現しました。シェーネアルバイテンと言う、修道院で作られた古い技術で純金・銀の特殊コイル状ワイヤーを使い、線を面にして立体を作り、植物の持つ自然の形態と組み合わせでデザインする技法で制作しました。日本で生まれた新しいドライフラワーのジャンルで、まだ一般には耳に新しい技法ではございますが、創る喜びを大切に戴いた賞に恥じぬよう精進して参りたいと思えます。

最後になりましたが、(財)日本手芸作家連合会の益々のご発展と、先生方のご健勝を心よりお祈り申し上げます、お礼の言葉とさせていただきます。

東京都議会議長賞

青山京子

大妻コタカ賞

「地藏菩薩」 鎌倉彫



大妻コタカ賞

第42回創作手工芸展において大変名誉ある大妻コタカ賞をいただきました事はお喜びです。夢を見ているようです。人生で賞をいただいたのは第40回創作手工芸展での奨励賞に次ぐ二度目の賞で身に余る光栄と存じ深く感謝申し上げます。

鎌倉彫を習い始めて四年半まだ鎌倉彫の緒に付いたばかりですが、見るもの全て鎌倉彫の題材にならないかと見ております。隅々開いた日本のお寺の写真集にあった地藏菩薩に目が留まりました。

菩薩の袈裟のひだの美しさに魅せられ、この美しさを鎌倉彫で表現してみたいを思いました。下絵を描いて彫って、削り取って、刀の跡をたどって下絵を書き、それを彫ってまた削り取り、下絵かきと何度も繰り返しました。ひだの

感じと左手の感じは自分として思いつきの出来だと思っております。ただ地藏菩薩のかすかな笑みを浮かべた純粹無事の優しい童顔を表現出来ず苦労しました。汚れすぎていたのかと反省しております。この賞の受賞の名を汚さないよう今後一層の努力をすべしと、今後は益々(財)日本手芸作家連合会の発展を心よりお祈り申し上げます。

大妻コタカ賞

平田光政

日本手芸作家連合会会長賞

「黄昏れ」 ヨーロッパ刺繍



日本手芸作家連合会会長賞

この度は、思いもよらぬ賞をいただき次第となり、誠に恐縮しております。このような立派な会に参加させていただける事、大変感謝しております。

だいぶ昔のことになりますが、北海道へドライブ旅行した際、体験した三百六十度の果てしなく広がる荒涼とした情景が忘れられず、表現してみました。どちらかと言うと、単調になりがちな光景でしたので、中々刺す気になれずいた時、主人お気に入りの甕罎(かめしずく)という焼酎を縛っていた麻紐に出会いました。これで枯草が表現できると考え、麻紐をほぐし、アイロンをかけ使ってみたところ、あの荒涼とした風景の中で吹きさらされる草が、うまく表わせると思えました。風や黄昏れ近くの光、陰を思い浮かべ、糸を重ねていきました。荒野で獲物を狙う「フクロウ」。

狙いを定める姿、鋭い眼光など実際には出会う機会が少ない生物です。図鑑や写真を参考に刺してみました。フクロウと情景のバランスは試行錯誤の繰り返しでした。しかしながら居城先生をはじめ、諸先生方に暖かく御指導を受け、作り上げることができました。又、いつも作品を引き立ててくださるとも素敵額を作った環境に感謝しております。

日本手芸作家連合会会長賞

畑 治美

審査委員長賞

「おいしいよ私達」ミニチュアフード



審査委員長賞

この度は、栄えある審査委員長賞を戴きまして、心から厚く御礼申し上げます。

私は、創作手芸を始めて、早四十年、この節目に、長年に渡り続けてきたフラワーアートと共に、新たにミニチュアフード作り挑戦し、受賞出来ました事に感激もひとしおでございます。

今回の作品のきっかけは、最近フェルト、プリザーブド等の素材を用いてアレンジしたスイーツ作品が目につきました。

そこで、素材として樹脂粘土を選び、私流のミニチュアフードの製作をしてみました。

作品作りにおいていかにリアルに出来るか試行錯誤をくり返すスイーツ、くだもの、野菜、パン、

等作り、次は何を製作しようと考え身近な和食をテーマとし、製作を始め一つ出来る度これが又楽しくて、作品が増えていった次第でございます。

これからも、フラワーアートと共に、このミニチュアフード作りは、私の生涯学習として、又より多くの方々に見て楽しんでいただけるような作品作りをして参りたいと思っております。

最後になりましたが、財団法人日本手芸作家連合会の益々の御発展と諸先生方の御健勝を祈念致しまして、感謝の言葉に代えさせていただきます。

審査委員長賞

渡邊延江

創作手芸展を終えて

平成21年11月29日、1週間に亘る東京都美術館での創作手芸展が無事閉会されました。恙なく終了できましたのも皆様の御尽力のお陰と感謝申し上げます。

連合会の歴史ある創作手芸展を継承するにあたって、42回展では「出展者層」と「出展種目」の拡大を目指しました。出展者層の拡張では学生の参加を呼びかけました結果、台湾の留学生から社会人学生まで大変幅広い参加が実現しました。出展種目も、関係者の呼



掛けや協賛会社に貼られたポスターが契機となり、新しい種目が多々加わりましたことは大変喜ばしい成果でした。

一方、毎年必ず出展を果たしていらっしゃる作家の力作、また同時開催「ハンドクラフト・コレクション展」に並びました愛蔵作品に支えられ、42回展の内容も質の高い充実した展示が可能になりました。紙面を借りまして御礼申し上げます。

多岐に亘る種目はカードで紹介し、更に第二回「デモンストレーション」に於きまして深く紹介しております。今回応募いただきましたのは「ハーダンガー刺繍」(古谷・本橋教室)、「シェーネアルバイテン」(リビエール教室)で、ハーダンガー発祥の地、ノルウェー大使館からの問い合わせ、

また東京都美術館の撮影取材も行われ、連合会ならではの「動く展示」に高い関心が寄せられました。詳細な解説や制作過程の実演が始まりますと、そこは種目を越えた作家の交流の場と化し、展示会場に暖かな空間が生まれます。手芸の紹介・普及は会の事業目的でもあります。今後もっと多くの作家がデモンストレーションに参加し、更に豊かな創作展になりますよう念じております。

さて、恒例のチャリティですがお蔭様をもちまして、作品販売の収益をNHK厚生文化事業団に寄付することができました。今年の実行委員による初の試み、共同制作(コラボレーション・ワーク)で誕生しました独創的アクセサリーも話題を呼び、早々に完売を果たしています。制作、作品寄贈、チャリティ事業の推進とその成果をみましても、作家の高い志にこの会は支えられていることを実感いたします。ご協力、本当に有難うございました。

次回からは東京都美術館の改装工事により会場変更を余儀なくされますが、創作展の目指す質に変わりはありません。会の発展と創作展の成功を目指して、またどうぞ宜しく願い申し上げます。

実行委員長 片山理恵子

筆のむくままに

第十六号

文明社会と刺しゅう文化の発祥

ディー・エム・シー株式会社

代表取締役 本多 浩二

会員の皆様、新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。また、昨年末の第四十二回創作手工芸展のご成功、誠にありがとうございました。

さて、最近の世界的な厳しい経済情勢にもかかわらず、刺しゅうを始めとする手芸文化の発展は衰えを見せず、ここ近年益々、手芸を楽しむ人達が日本を始め、世界的にも増加傾向です。やはり先行きの見えない厳しい経済環境下では、趣味においても、自宅などで気軽に楽しめる、手芸創作活動がその楽しさとともに、人々に広がりを見せているようです。

私もこの刺しゅう・手芸関係の仕事に携わるひとりとして、ここ最近若い人や家庭の主婦たちの間で、刺しゅうがにわかな広がりを見せているのが、いったいなぜなのかを、少し歴史をさかのぼってひも解いてみました。

文明社会の発祥は、今から約一万年前といわれ、農業を行い家畜を飼ひ、それまでの人類出現から長きに渡っての狩猟及び採集生活

から決別したのが、その頃だといわれています。農業の始まりとともに、それまでは動物の皮革や木のかわなどで、衣服を作っていたのが、織物生産を開始するようになり、初めはフェルトや羊毛が主で、木綿はしばらく後に生産が始まったとされています。

その布地に模様を織り込むのは、複雑な技法が必要だったので、模様には刺しゅうがほどこされていたと考えられています。もちろん当時の布製品が残っているわけではなく、古代の彫刻や絵画などから推測したのだそうです。

(古代オリエント博物館の資料) なんと刺しゅう文化の始まりは、人類の文明社会の始まりとともにあったのです。まさに刺しゅうの歴史は人類の歴史、創作の歴史といえるのではないのでしょうか。

色鮮やかで、色とりどりの刺しゅう糸が歴史を越え現在に至るまで、刺しゅう愛好家の心をつかんでほさないのは、刺しゅうという創作活動が趣味としてだけのものではなく、文化的な要素の強い活動であり、デザイン・創作の原点であると考えられます。

不況や不景気に左右されずに、刺しゅう糸の需要が着実に伸びているのは、そういう歴史的背景があるように思われます。会員の皆さま方のご健勝と更なる

意欲的な創作活動及び、後世に伝えるべく後進の方々へのご指導を期待しております。

平成21年度  
免状・修了証取得者

助教授免状

井上貴代美(東京) 畑 治美(埼玉)  
宮上富士子(東京) 柳下美恵子(東京)  
今岡桂子(広島)

講師免状

和田美代子(茨城) 青山京子(神奈川)  
古井まり子(東京) 根津美奈(東京)  
北村亜土(東京)

高等科修了証

鈴木絵理(東京) 坂本智恵子(神奈川)  
福田博子(神奈川)

普通科修了証

深谷由美子(東京) 三浦かすみ(東京)  
齊藤満子(神奈川) 鬼久保千恵子(東京)  
佐藤美恵子(茨城) 峯川友紀(東京)  
木村静枝(広島)

新入会

名取佳子(東京) 大塚こずえ(山梨)  
齊藤満子(神奈川) 鬼久保千恵子(東京)  
柴崎 葵(東京) 佐藤美恵子(茨城)  
峯川友紀(東京) 木村静枝(広島)  
北原真実(東京) 庄山珍実(東京)

事務局だより

チャリティ御協力御礼

皆様から作品御協力いただきまして、社会福祉法人NHK厚生文化事業団にも例年通り寄付することが出来ました。皆様のご支援の温かさを感謝しております。ありがとうございます。

創作手工芸展実行委員一同

会費等の改定について

昨年11月27日に開催されました支部長・教室長会におきまして、本連合会の財政が逼迫していることに鑑み、会費等の値上げ案が了承されました。つきましては、今後理事会の議を経て、正式に平成22年4月1日付で改定となる予定です。会員の皆様方には予めご承知おき願ひします。なお、改定(値上げ)額等につきましては、別紙をご参照ください。

TEL 03(3374)3359  
FAX 03(3374)3352  
メールアドレス  
info@syugei-sakka.jp

URL  
http://www.syugei-sakka.jp

郵便振替口座番号  
00100・5・85006

